

九州厚生局長 殿

大分大学医学部附属病院長
古 林 秀 貞

特定機能病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 2 2 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

| | |
|--------|------|
| 研修医の人数 | 32 人 |
|--------|------|

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照 (様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照 (様式第 13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

| 職 種 | 常 勤 | 非常勤 | 合 計 | 職 種 | 員 数 | 職 種 | 員 数 |
|-------|------|------|--------|---------|-----|-------------|------|
| 医 師 | 199人 | 219人 | 403.4人 | 看護補助者 | 34人 | 診療エックス線技師 | 0人 |
| 歯科医師 | 7人 | 10人 | 16.2人 | 理学療法士 | 7人 | 臨床検査技師 | 35人 |
| 薬剤師 | 25人 | 3人 | 28.人 | 作業療法士 | 4人 | 衛生検査技師 | 0人 |
| 保健師 | 1人 | 0人 | 1.人 | 視能訓練士 | 3人 | 検査その他 | 0人 |
| 助産師 | 19人 | 0人 | 19.人 | 義肢装具士 | 0人 | あん摩マッサージ指圧師 | 0人 |
| 看護師 | 509人 | 56人 | 548.9人 | 臨床工学技士 | 9人 | 医療社会事業従事者 | 0人 |
| 准看護師 | 0人 | 0人 | 0.人 | 栄 養 士 | 0人 | その他の技術員 | 19人 |
| 歯科衛生士 | 2人 | 0人 | 2.人 | 歯科技工士 | 2人 | 事務職員 | 145人 |
| 管理栄養士 | 5人 | 1人 | 6.人 | 診療放射線技師 | 29人 | その他の職員 | 41人 |

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

| | 歯科等以外 | 歯科等 | 合 計 |
|--------------|---------|-------|----------|
| 1日当たり平均入院患者数 | 509.3人 | 9.4人 | 518.7人 |
| 1日当たり平均外来患者数 | 964.6人 | 49.9人 | 1,014.5人 |
| 1日当たり平均調剤数 | 1900.7剤 | | |

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数 (毎日の 24 時現在の在院患者数の合計) を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。



(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

| | | | |
|---|--|-------|-----|
| 医療技術名 | 骨変形矯正や開放粉碎骨折に対するTaylor Spatial Frame(創外固定) | 取扱患者数 | 5人 |
| 当該医療技術の概要 他の創外固定器と違い、装着後より3次元的に変形矯正ができる。 | | | |
| 医療技術名 | バルーン閉塞下逆行性経静脈塞栓術 | 取扱患者数 | 15人 |
| 当該医療技術の概要 内視鏡的に治療困難な消化管静脈瘤に対し、経静脈的にカテーテルを挿入し、流出路をバルーンにて閉塞下にオルダミンなどの硬化剤を使用して静脈瘤の根治を得る手技。 | | | |
| 医療技術名 | 血管腫・血管奇形に対する直接穿刺による硬化療法 | 取扱患者数 | 3人 |
| 当該医療技術の概要 経動脈的塞栓術では効果の見込めない血管腫・血管奇形病変に対し、直接穿刺し、硬化剤を注入する方法。 | | | |
| 医療技術名 | 超音波気管支鏡ガイド下経気管支リンパ節生検(EBUS-TBNA) | 取扱患者数 | 29人 |
| 当該医療技術の概要 先端に超音波発信器が付属された超音波気管支鏡を用いて、気管・気管支の深層にあるリンパ節に対して、エコー画像ガイド下に穿刺吸引生検を行い、組織診断する。 | | | |
| 医療技術名 | 超音波プローブおよび気管支鏡ナビゲーションシステム補助下の経気管支肺生検 | 取扱患者数 | 33人 |
| 当該医療技術の概要 気管支鏡検査の前日までにナビゲーションシステムで病巣との関与が予想される気管支を同定し、気管支鏡検査時間の短縮を図る。実際の検査においては、ナビゲーションシステムの結果を参考としつつ、超音波プローブを用いて標的とした陰影に確実に的中させ、その後ガイドシース内の器具を入れ替えて生検を行う。 | | | |
| 医療技術名 | 神経・筋変性疾患の遺伝子診断 | 取扱患者数 | 18人 |
| 当該医療技術の概要 縁取り空胞を伴う遠位型ミオパチー、ダノン病、肢体型筋ジストロフィーなどの生検筋組織を筋病理組織学的・生化学的に解析し、筋疾患の正確な診断を行う。PCR法、DNAシーケンサー装置等を用いて責任遺伝子の異常を検索し、神経・筋変性疾患の正確な診断を行う。 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 大 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

| 疾患名 | 取扱患者数 | 疾患名 | 取扱患者数 |
|--|-------|---|-------|
| ・ベーチェット病 | 55人 | ・膿疱性乾癬 | 5人 |
| ・多発性硬化症 | 44人 | ・広範脊柱管狭窄症 | 6人 |
| ・重症筋無力症 | 46人 | ・原発性胆汁性肝硬変 | 27人 |
| ・全身性エリテマトーデス | 180人 | ・重症急性膵炎 | 7人 |
| ・スモン | 1人 | ・特発性大腿骨頭壊死症 | 37人 |
| ・再生不良性貧血 | 17人 | ・混合性結合組織病 | 27人 |
| ・サルコイドーシス | 155人 | ・原発性免疫不全症候群 | 0人 |
| ・筋萎縮性側索硬化症 | 20人 | ・特発性間質性肺炎 | 51人 |
| ・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎 | 100人 | ・網膜色素変性症 | 13人 |
| ・特発性血小板減少性紫斑病 | 22人 | ・プリオン病 | 0人 |
| ・結節性動脈周囲炎 | 18人 | ・肺動脈性肺高血圧症 | 3人 |
| ・潰瘍性大腸炎 | 66人 | ・神経線維腫症 | 9人 |
| ・大動脈炎症候群 | 14人 | ・亜急性硬化性全脳炎 | 0人 |
| ・ビュルガー病 | 2人 | ・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群 | 1人 |
| ・天疱瘡 | 8人 | ・慢性血栓塞栓性肺高血圧症 | 2人 |
| ・脊髄小脳変性症 | 25人 | ・ライソゾーム病 | 2人 |
| ・クローン病 | 32人 | ・副腎白質ジストロフィー | 0人 |
| ・難治性の肝炎のうち劇症肝炎 | 2人 | ・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体) | 0人 |
| ・悪性関節リウマチ | 12人 | ・脊髄性筋萎縮症 | 2人 |
| ・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病) | 54人 | ・球脊髄性筋萎縮症 | 1人 |
| ・アミロイドーシス | 4人 | ・慢性炎症性脱髄性多発神経炎 | 4人 |
| ・後縦靭帯骨化症 | 29人 | ・肥大型心筋症 | 1人 |
| ・ハンチントン病 | 3人 | ・拘束型心筋症 | 0人 |
| ・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症) | 21人 | ・ミトコンドリア病 | 6人 |
| ・ウェゲナー肉芽腫症 | 8人 | ・リンパ脈管筋腫症(LAM) | 4人 |
| ・特発性拡張型(うっ血型)心筋症 | 19人 | ・重症多形滲出性紅斑(急性期) | 0人 |
| ・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群) | 16人 | ・黄色靭帯骨化症 | 1人 |
| ・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型) | 2人 | ・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症) | 38人 |

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

| 施設基準等の種類 | 施設基準等の種類 |
|------------------------------------|----------|
| ・超音波骨折治療法(一連につき) | ・ |
| ・眼底三次元画像解析 | ・ |
| ・腹腔鏡下肝部分切除術 | ・ |
| ・腋窩リンパ節郭清術の実施前におけるセンチネルリンパ節の同定及び生検 | ・ |
| ・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の同定及び転移の検索 | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

| | |
|-------------------------------------|--|
| 臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況 | ①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。 |
| 臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度 | 平均して毎月1回 |
| 部 検 の 状 況 | 部検症例数 23例 / 部検率 8.85% |

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額(千円) | 補助元又は委託元 |
|---|--------|-----------|--------|--------------------------|
| 心筋虚血再灌流障害における水素ガスの抗酸化効果の検討 | 古賀 寛教 | 麻酔科 | 1,040 | ③ 委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| ヒト尿道括約筋におけるマイオスタチンの関与とその抑制による筋再生についての研究 | 住野 泰弘 | 腎臓外科・泌尿器科 | 1,300 | ③ 委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| ピロリ菌毒性因子の分子疫学的研究 ベトナムに特異的な遺伝型の同定と解析 | 黒田 明子 | 内科 | 2,080 | ③ 委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| うつ病における唾液アミラーゼとDEX/CRH試験の相互作用 | 津留 壽船 | 精神科 | 2,080 | ③ 委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| ラット脊椎固定モデルにおけるカーボンナノファイバーの骨誘導能の検討 | 宮崎 正志 | 整形外科 | 650 | ③ 委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 積極的脳循環維持による心臓手術後せん妄および認知機能低下予防効果の解明 | 後藤 孝治 | 麻酔科 | 1,170 | ③ 委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 腎癌増殖・骨転移におけるβ2ミクログロブリン刺激伝導系の影響に関する研究 | 野村 威雄 | 腎臓外科・泌尿器科 | 1,300 | ③ 委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| デルマトポンチンの新規創傷治癒促進ペプチドの分子機構解明 | 加藤 愛子 | 形成外科 | 1,170 | ③ 委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 新規抗酸化物質ETS-GSを用いた脳虚血再灌流障害への新しいアプローチ | 長谷川 輝 | 麻酔科 | 2,080 | ③ 委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 子宮内膜および子宮内膜症の再構築に関する研究 | 津野 晃寿 | 産科婦人科 | 2,080 | ③ 委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 新たな子宮内膜症治療薬の検討 | 西田 正和 | 産科婦人科 | 3,120 | ③ 委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 子宮内膜における着床現象の解明 | 古川 雄一 | 産科婦人科 | 2,080 | ③ 委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 眼瞼脂腺癌の遺伝子異常解析 | 清崎 邦洋 | 眼科 | 780 | ③ 委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 体外フォトフェレーシスによる抗原特異的免疫寛容の導入 | 清水 史明 | 皮膚科 | 3,120 | ③ 委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 更年期女性の微小血管性狭心症の病態解明と漢方治療の確立 | 中川 幹子 | 内科 | 1,040 | ③ 委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 漢方薬の生理活性ペプチドを指標とする薬効解析 | 武山 正治 | 薬剤部 | 1,430 | ③ 委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 緑膿菌感染症の制御に向けた新戦略一線毛を標的としたワクチン療法の開発 | 門田 淳一 | 内科 | 1,560 | ③ 委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| GNE遺伝子異常に伴う遠位型ミオパチーの治療法の開発 | 熊本 俊秀 | 内科 | 1,170 | ③ 委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| Th2プロフィールは皮膚バリア機能を改変する一アトピー性皮膚炎増悪の新仮説 | 波多野 豊 | 皮膚科 | 520 | ③ 委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 不安障害におけるobestatinの役割 | 穂吉 條太郎 | 精神科 | 1,430 | ③ 委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 胃静脈瘤に対するコアキシャルバルーンカテーテルシステムを使用した治療法の確立 | 清末 一路 | 放射線科 | 520 | ③ 委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 脳低体温療法施行時の患者重症度に関する研究一電子スピン共鳴法を用いた検討 | 新宮 千尋 | 麻酔科 | 650 | ③ 委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| HMGB1を標的とした血液浄化による新たな敗血症治療法の開発 | 日高 正剛 | 麻酔科 | 1,430 | ③ 委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| サイトカインのシグナル制御を基盤とした尿道括約筋再生療法の開発 | 三股 浩光 | 腎臓外科・泌尿器科 | 780 | ③ 委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 子宮内膜症の病態の解明と新しい視点に基づく治療法の確立 | 奈須 家栄 | 産科婦人科 | 650 | ③ 委 独立行政法人 日本学術振興会 |

| | | | | | |
|--|--------|-------------|-------|----|-------------------|
| 血小板活性化因子による絨毛及び脱落膜の血管新生の制御 | 楢原 久司 | 産科婦人科 | 910 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 樹状細胞を標的とした上気道粘膜ワクチン開発—上気道炎と頭頸部癌への応用— | 児玉 悟 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 | 1,300 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| TGF-βシグナル関連因子阻害による増殖性硝子体網膜症の治療戦略 | 木許 賢一 | 眼科 | 1,430 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 口腔扁平上皮癌に対する浸潤・転移抑制療法確立のための基礎研究 | 河野 憲司 | 歯科口腔外科 | 1,170 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 免疫系における新規RNAキナーゼの生理機能 | 花田 俊勝 | 腎臓外科・泌尿器科 | 910 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| オピオイド鎮痛薬個別化治療への遺伝子メカニズムの解明と応用 | 大橋 京一 | 内科 | 520 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 母乳ガングリオシドとシアル酸含有多糖類の生理作用:神経細胞分化への影響 | 泉 達郎 | 小児科 | 2,470 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 双極スペクトラム概念の検証・再構築とうつ病への臨床応用 | 寺尾 岳 | 精神科 | 1,820 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 高分解MRIによる膝周囲リンパ路の解析 | 森 宣 | 放射線科 | 390 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 蛍光プローブ導入制限増殖型レオウイルスによる腹膜転移特異的画像診断の開発 | 衛藤 剛 | 外科 | 1,170 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 食道扁平上皮癌の新規癌抑制遺伝子としてのEMP3の同定と発現制御機構の解明 | 野口 剛 | 外科 | 1,040 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 左肺癌における右上縦隔郭清の予後に及ぼす影響—特に微小リンパ節転移について— | 川原 克信 | 外科 | 910 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 非侵襲的脳機能再建の系統的戦略 | 藤木 稔 | 脳神経外科 | 910 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 全身性炎症反応時におけるオートファジーの役割の検討とその制御法の開発について | 萩原 聡 | 麻酔科 | 1,040 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 2型糖尿病ラットにおける腎虚血再灌流性急性腎障害での知覚神経活性化の役割 | 工藤 享祐 | 麻酔科 | 1,430 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| PLKを標的とした婦人科癌の治療とマイクロアレイによる抗癌作用機序の解析 | 高井 教行 | 産科婦人科 | 910 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 頭頸部癌におけるTLRの発現と生物学的意義の解明 | 能美 希 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 | 1,430 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 電磁ホーン型ESRイメージング装置による脳虚血モデルでの酸化ストレスの画像化 | 上田 徹 | 脳神経外科 | 3,380 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 圧受容体反射による2型糖尿病患者のリスク層別化と魚油製剤による心血管イベント抑制 | 油布 邦夫 | 内科 | 1,300 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 糖尿病モデル動物における反復性低血糖発作が心筋へ及ぼす影響と病態の解明 | 手嶋 泰之 | 内科 | 1,040 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 禁煙後に生じる体重増加機構の解析～摂食中枢関連ホルモンとビロリ菌の影響について～ | 阿部 航 | 内科 | 1,950 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 急性好酸球性肺炎におけるオステオポンチン上昇の意義 | 宮崎 英士 | 内科 | 1,690 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| ストレスと肥満症:神経ヒスタミンによる脳内メカニズムの解明 | 吉松 博信 | 内科 | 2,730 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 自殺に影響を与える要因の多角的検討:水道水に含まれる微量なリチウムを中心に | 石井 啓義 | 精神科 | 1,300 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 多検出器CTを用いた肝内外門脈周囲域への癌進展形式の解析 | 松本 俊郎 | 放射線科 | 2,080 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| ヒト心筋電気的リモデリングの成因解明のためのマイクロRNA解析 | 岩田 英理子 | 心臓血管外科 | 3,120 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 骨折治癒におけるリコンビナント線維芽細胞増殖因子とビスホスフォネートの協調効果 | 片岡 晶志 | 整形外科 | 1,560 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| ラット疼痛モデルにおける新規化合物DHLHZNの有用性の検討 | 竹島 直純 | 麻酔科 | 2,340 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |

| | | | | | |
|--|--------|-------------|---------|--------|-------------------|
| InvasivefrontのmiRNAの発現解析による前立腺癌細胞浸潤機序の解明 | 佐藤 文憲 | 腎臓外科・泌尿器科 | 1,950 | 補 委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| インフルエンザ菌の感染性免疫寛容に伴う慢性炎症化機序の解明 | 平野 隆 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 | 1,170 | 補 委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 重症病態の栄養学的介入による細胞エネルギー代謝調節因子の解明と新栄養療法の開発 | 岩坂 日出男 | 麻酔科 | 2,860 | 補 委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 心筋細胞のイオンチャネル発現を制御する転写因子の決定 | 犀川 哲典 | 内科 | 900 | 補 委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| カプサイシンが薬物動態に与える影響～日韓薬物動態研究～ | 森本 卓哉 | 内科 | 3,510 | 補 委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 脂肪細胞由来生理活性物質の子宮内膜機能への影響に関する研究 | 河野 康志 | 産科婦人科 | 1,560 | 補 委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 進行性大腸がんに対する低侵襲治療法の標準的治療法確立に関する研究 | 北野 正剛 | 外科 | 42,559 | 補 委 | 厚生労働省 |
| グローバル早期臨床試験推進のための大病院ネットワーク構築の基盤整備事業 | 大橋 京一 | 臨床薬理センター | 123,500 | 補 委 | 厚生労働省 |
| がんの腹膜播種に対する標準的治療の確立に関する研究 | 白尾 國昭 | 腫瘍内科 | 13,650 | 補 委 | 厚生労働省 |

計62

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

| 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|--|--|-------|------|
| CIRCULATION JOURNAL (22年7月発行) | Baroreflex sensitivity predicts cardiovascular events in patients with type 2 diabetes mellitus without structural heart disease. | 岡田憲広 | 内科第一 |
| JOURNAL OF HUMAN GENETICS (22年11月発行) | Polymorphisms in NRXN3, TFAP2B, MSRA, LYPLAL1, FTO and MC4R and their effect on visceral fat area in the Japanese population. | 吉松博信 | 内科第一 |
| ENDOCRINE JOURNAL (23年3月発行) | The effects of branched-chain amino acid granules on the accumulation of tissue triglycerides and uncoupling proteins in diet-induced obese mice. | 正木孝幸 | 内科第一 |
| DIABETES CARE (23年3月発行) | Visceral fat accumulation is associated with circadian blood pressure in Japanese patients with impaired glucose tolerance. | 正木孝幸 | 内科第一 |
| Okajimas Folia Anatomica Japonica (23年2月発行) | Human skeletal muscles replaced to a high degree by white adipose tissue. | 正木孝幸 | 内科第一 |
| EUROPEAN JOURNAL OF CLINICAL INVESTIGATION (23年1月発行) | Homocysteine levels are associated with hippocampus volume in type 2 diabetic patients. | 正木孝幸 | 内科第一 |
| Blood (22年8月発行) | Human T-cell leukemia virus type 1 (HTLV-1) proviral load and disease progression in asymptomatic HTLV-1 carriers: a nationwide prospective study in Japan. | 緒方正男 | 内科第二 |
| Journal of Cardiac Failure (22年9月発行) | Washout rate of cardiac iodine-123 metaiodobenzylguanidine is high in chronic heart failure patients with central sleep apnea. | 田村彰 | 内科第二 |
| 気管支学 (22年4月発行) | 気管支鏡所見とカプセル内視鏡所見を認めた悪性黒色腫の1例. | 石井 寛 | 内科第二 |
| Journal of Cardiology (23年3月発行) | Associations of positive T wave in lead aVR with hemodynamic, coronary, and left ventricular angiographic findings in anterior wall old myocardial infarction. | 篠崎和宏 | 内科第二 |
| Tohoku Journal of Experimental Medicine (23年2月発行) | Limited role of auxiliary endobronchial biopsy in the diagnosis of Japanese patients with sarcoidosis. | 石井 寛 | 内科第二 |
| Clinical Rheumatology (22年4月発行) | Successful treatment with tacrolimus of progressive interstitial pneumonia associated with amyopathic dermatomyositis refractory to cyclosporine. | 安東 優 | 内科第三 |
| Lung (22年6月発行) | Significance of serum vascular endothelial growth factor level in patients with idiopathic pulmonary fibrosis. | 安東 優 | 内科第三 |
| Journal of Thoracic Oncology (22年7月発行) | Hypertrophic pulmonary osteoarthropathy as a paraneoplastic manifestation of lung cancer | 伊東猛雄 | 内科第三 |
| Respirology (22年7月発行) | Osteopontin levels are elevated in patients with eosinophilic pneumonia. | 宮崎英士 | 内科第三 |
| British Journal of Radiology (23年3月発行) | Comparison of pulmonary thin section CT findings and serum KL-6 levels in patients with sarcoidosis. | 安東 優 | 内科第三 |
| Allergy International (23年3月発行) | Increase in salivary cysteinyl-leukotriene concentration in patients with aspirin-intolerant asthma. | 宮崎英士 | 内科第三 |
| Pathobiology (22年7月発行) | Induction of GNE in myofibers after muscle injury | 中村憲一郎 | 内科第三 |
| 臨床神経学 (23年2月発行) | 周期性一側てんかん型放電をとまない、てんかん性失語重積状態をくりかえした辺縁系脳炎の1例 | 増田 曜章 | 内科第三 |
| Clinical Neuropsychopharmacology and Therapeutics (22年10月発行) | Pharmacotherapy for visual hallucinations: A review focusing on Charles Bonnet syndrome | 引地孝俊 | 精神科 |
| Neuropeptides (22年10月発行) | Serum hepatocyte growth factor levels and the effects of antidepressants in panic disorder | 兼久雅之 | 精神科 |
| International Journal of Psychiatry in Clinical Practice (22年11月発行) | Elevated salivary α -amylase and cortisol levels in unremitted and remitted depressed patients | 石飛佳宣 | 精神科 |
| Psychopharmacology (23年2月発行) | Light can ameliorate low mood in healthy people.(Letter to the editors) | 寺尾 岳 | 精神科 |
| European Journal of Nutrition (23年2月発行) | Low-dose lithium uptake promotes longevity in humans and metazoans | 寺尾 岳 | 精神科 |
| Psychopharmacology (23年2月発行) | Biological aspect of hyperthymic temperament: light, sleep, and serotonin | 帆秋伸彦 | 精神科 |
| 臨床精神医学 (23年3月発行) | 日本うつ病学会治療ガイドライン I. 双極性障害2011 | 寺尾 岳 | 精神科 |
| Journal of Affective Disorders (23年3月発行) | Cyclothymic and hyperthymic temperaments may predict bipolarity in major depressive disorder: A supportive evidence for bipolar II 1/2 and IV | 後藤慎二郎 | 精神科 |
| 九州神経精神医学 (別冊) (22年8月発行) | 長期間のひきこもりに対し、外来作業療法を導入できた社交不安障害の1例(研究と報告) | 寺尾 岳 | 精神科 |
| 九州神経精神医学 (別冊) (22年12月発行) | 描画療法と認知療法の併用により構音障害が軽快した転換性障害の1症例 | 寺尾 岳 | 精神科 |
| 精神科 (23年3月発行) | 入院治療によりアドヒアランスが改善し、セルトラリンが奏効した老年うつ病の1症例 | 石井啓義 | 精神科 |
| Pediatric Allergy And Immunology (22年5月発行) | The indication and effectiveness of low dose erythromycin therapy in pediatric patients with bronchial asthma. | 是松聖悟 | 小児科 |
| Clinical Neurophysiology (22年5月発行) | PLEDs in an infant with congenital protein C deficiency : a case report | 関口和人 | 小児科 |
| Clinical and Experimental Allergy (23年2月発行) | Elevated umbilical cord serum TARC/CCL17 levels predict the development of atopic dermatitis in infancy. | 是松聖悟 | 小児科 |

| | | | |
|---|---|-------|--------|
| General Thoracic and Cardiovascular Surgery Vol.58 No.8 (22年8月発行) | Intraoperative bronchoscopic resection of a papillary fibroelastoma in the left ventricular outflow tract after aortic mechanical valve replacement | 宮本伸二 | 心臓血管外科 |
| Clinical neurophysiology (22年4月発行) | Increasing high-frequency oscillations (HFOs) in patients with brain tumours: implication for increasing amplitude of N20. | 大場 寛 | 脳神経外科 |
| Journal of Clinical Neuroscience (22年4月発行) | Visualization of subdural electrodes with fusion CT scan/MRI during neuronavigation-guided epilepsy surgery. | 上田 徹 | 脳神経外科 |
| Neurologia medico- Chirurgica (Tokyo) (22年8月発行) | Cerebral vasculitis associated with amyloid angiopathy: case report. | 森重真毅 | 脳神経外科 |
| Metabolism (22年5月発行) | High-sensitivity C-reactive protein is associated with hippocampus volume in nondementia patients with type 2 diabetes mellitus. | 下村 剛 | 脳神経外科 |
| Experimental neurology (22年5月発行) | Electroconvulsive seizure-induced VEGF is correlated with neuroprotective effects against cerebral infarction: Involvement of the phosphatidylinositol-3 kinase/Akt pathway. | 藤木 稔 | 脳神経外科 |
| Journal of spinal disorders & techniques (22年6月発行) | Analysis of the Relationship Between Facet Joint Angle Orientation and Lumbar Spine Canal Diameter With Respect to the Kinematics of the Lumbar Spinal Unit. | 宮崎正志 | 整形外科 |
| 西日本皮膚科 (22年4月発行) | 爪甲下悪性黒色腫初期病変の診断 | 後藤真由子 | 皮膚科 |
| Case Reports in Ophthalmology (22年6月発行) | Cystoid macular edema; Possible complication of Infliximab therapy in Behcet's disease. | 久保田敏昭 | 眼科 |
| Case Reports in Ophthalmology (22年6月発行) | Two cases of endogenous endophthalmitis caused by gram-positive bacteria with good visual outcome | 木許賢一 | 眼科 |
| 臨床眼科 (22年8月発行) | 悪性リンパ腫関連網膜症の1例 | 調枝聡治 | 眼科 |
| Archives of ophthalmology (22年12月発行) | Angiographic changes in iris and iridocorneal angle neovascularization after intravitreal bevacizumab | 久保田敏昭 | 眼科 |
| あたらしい眼科 (22年12月発行) | ラタノプロストからタフルプロストへの切り替えによる長期効果 | 中野聡子 | 眼科 |
| あたらしい眼科 (22年12月発行) | 線維柱帯切除術後の脈絡膜剥離に関する臨床経過の検討 | 久保田敏昭 | 眼科 |
| International Ophthalmology (22年12月発行) | Optical coherence tomographic assessment of dynamic macular changes in patients with Vogt-Koyanagi-Harada disease | 木許賢一 | 眼科 |
| 臨床眼科 (23年2月発行) | 整復手術が必要であった眼内レンズ位置異常症例の検討 | 久保田敏昭 | 眼科 |
| 臨床眼科 (23年2月発行) | ドライアイに対するアテロロラーゲン涙点プラグ(キープティア®)の治療効果 | 中野聡子 | 眼科 |
| The Annals of Thoracic Surgery (22年4月発行) | Survival of a free jejunal flap with venous occlusion. | 平野 隆 | 耳鼻咽喉科 |
| The Oncology Report (22年4月発行) | Toll-like receptor 3 signaling induces apoptosis in human head and neck cancer via survivin associated pathway. 24, 225-231, 2010 | 能美 希 | 耳鼻咽喉科 |
| 耳鼻咽喉科臨床 (22年4月発行) | 汎発疹を伴った喉頭帯状疱疹—粘膜疹の有無による病態の考察— | 鈴木正志 | 耳鼻咽喉科 |
| Vaccine (22年5月発行) | Nasal vaccination with P6 outer membrane protein and α -galactosylceramide induces nontypeable Haemophilus influenzae-specific protective immunity associated with NKT cell activation and dendritic cell expansion in nasopharynx | 野田加奈子 | 耳鼻咽喉科 |
| Actis Nasus Larynx (22年8月発行) | Ancient schwannoma of the nasal septum associated with sphenoid sinus mucocele | 児玉 悟 | 耳鼻咽喉科 |
| Acta Oto-Laryngologica (22年8月発行) | Correlation between anti-survivin antibody and survivin mRNA expression in head and neck cancer patients | 児玉 悟 | 耳鼻咽喉科 |
| 耳鼻咽喉科臨床 (22年8月発行) | 前頭陥凹・前頭洞に進展した内反性乳頭腫に対する内視鏡下副鼻腔手術—6例の検討と適応について— | 児玉 悟 | 耳鼻咽喉科 |
| 耳鼻咽喉科臨床 (22年8月発行) | さまざまな副鼻腔病変を呈したWegener肉芽腫3例—CT所見の検討— | 立山香織 | 耳鼻咽喉科 |
| 耳鼻咽喉科臨床 (22年9月発行) | 内視鏡下副鼻腔手術におけるMicroporous polysaccharide hemispheres(MPH, アリスタAHTM)の使用経験 | 児玉 悟 | 耳鼻咽喉科 |
| Annals of Otolaryngology Rhinology & Laryngology (22年10月発行) | Bilateral peritonsillar abscesses: our experience and clinical features | 渡邊哲生 | 耳鼻咽喉科 |
| International Journal of Otolaryngology (22年11月発行) | Sinonasal schwannoma with new bone formation expressing bone morphogenic protein | 児玉 悟 | 耳鼻咽喉科 |
| 耳鼻咽喉科免疫アレルギー (22年12月発行) | スギ花粉飛散数の累積曲線の検討 | 渡邊哲生 | 耳鼻咽喉科 |
| Vaccine (23年1月発行) | Nasal immunization with plasmid DNA encoding P6 protein and immunostimulatory complexes elicits nontypeable Haemophilus influenzae-specific long-term mucosal immune responses in the nasopharynx | 児玉 悟 | 耳鼻咽喉科 |
| 耳鼻咽喉科臨床 (23年1月発行) | 前外側および内側大腿皮弁採取の際のカラードブラ法の有用性 | 平野 隆 | 耳鼻咽喉科 |
| Advances of oto-rhino-laryngology (23年2月発行) | Nasal-associated lymphoid tissue immunity and vaccine development | 児玉 悟 | 耳鼻咽喉科 |
| Fertility and Sterility (22年6月発行) | Heparin is a promising agent for the treatment of endometriosis-associated fibrosis. | 奈須家栄 | 産科婦人科 |
| Archives of Gynecology and Obstetrics (22年5月発行) | Management of severe cervical stenosis after conization by detention of nylon threads tied up to intrauterine contraceptive device. | 奈須家栄 | 産科婦人科 |
| Molecular Medical Report (22年6月発行) | Synergistic anti-neoplastic effect of AG1478 in combination with cisplatin or paclitaxel on human endometrial and ovarian cancer cells. | 高井教行 | 産科婦人科 |

| | | | |
|---|---|-------|-------|
| Molecular Medical Report (22年6月発行) | Anti-neoplastic effect of β -hydroxyisovalerylshikonicin on a human choriocarcinoma cell line. | 高井教行 | 産科婦人科 |
| Cancer Letter (22年11月発行) | Novel target genes responsive to the anti-growth activity of triptolide in endometrial and ovarian cancer cells. | 高井教行 | 産科婦人科 |
| Gynecologic and Obstetric Investigation (22年12月発行) | Cadmium Chloride Induces the Expression of Metallothionein mRNA by Endometrial Stromal Cells and Amnion-Derived (WISH) Cells. | 河野康志 | 産科婦人科 |
| Human Reproduction (23年2月発行) | Thrombin-induced chemokine production in endometrial stromal cells. | 河野康志 | 産科婦人科 |
| European Journal of Obstetrics and Gynecology & Reproductive Biology (23年3月発行) | Attachment to extracellular matrices is enhanced in human endometriotic stromal cells: a possible mechanism underlying the pathogenesis of endometriosis. | 奈須家栄 | 産科婦人科 |
| Abdominal Imaging (22年4月発行) | Anatomical variations of peripancreatic veins and their intrapancreatic tributaries:multidetector-row CT scanning. | 本郷哲央 | 放射線科 |
| Abdominal Imaging (22年4月発行) | Peripancreatic lymphatic invasion by pancreatic carcinoma: evaluation with multi-detector row CT. | 才道昭 | 放射線科 |
| Abdominal Imaging (22年4月発行) | Pancreatic adenocarcinoma versus chronic pancreatitis: differentiation with triple-phase helical CT. | 山田康成 | 放射線科 |
| Abdominal Imaging (22年4月発行) | Invasive carcinomas originating from intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas:conspicuity and primary sites of the solid masses on triple-phase dynamic CT imaging. | 山田康成 | 放射線科 |
| British Journal of Radiology (22年10月発行) | Venous structures at the craniocervical junction: anatomical variations evaluated by multidetector row CT. | 田上秀一 | 放射線科 |
| British Journal of Radiology (22年10月発行) | Acute Klebsiella pneumoniae pneumonia alone and with concurrent infection: comparison of clinical and thin-section CT findings. | 岡田文人 | 放射線科 |
| Journal of Surgical Research (23年1月発行) | Gabexate mesilate inhibits the expression of HMGB-1 in LPS-induced acute lung injury. | 日高正剛 | 麻酔科 |
| Critical Care Medicine (23年3月発行) | New lipoic acid derivative drug DHLH2n prevents cardiac dysfunction in an isolated perfused rat heart model. | 萩原 聡 | 麻酔科 |
| Shock (23年3月発行) | Adenosine diphosphate receptor antagonist clopidogrel sulphate attenuates LPS-induced systemic inflammation in a rat model. | 萩原 聡 | 麻酔科 |
| Journal of Anesthesia (23年2月発行) | Total parenteral-nutrition-mediated dendritic-cell activation and infiltration into the small intestine in a rat model. | 萩原 聡 | 麻酔科 |
| Inflamm Research (22年7月発行) | High-dose antithrombin III prevents heart stroke by attenuating systemic inflammation in rats. | 萩原 聡 | 麻酔科 |
| Neurochemical Research (22年7月発行) | An electron spin resonance study for real-time detection of ascorbyl free radical after addition of dimethyl sulfoxide in murine hippocampus or plasma during kainic acid-induced seizures. | 松本重清 | 麻酔科 |
| General Thoracic and Cardiovascular Surgery (22年11月発行) | Herpes simplex virus pneumonia following mitral valve replacement. | 松本重清 | 麻酔科 |
| Journal of Anesthesia (22年10月発行) | Effective control of paroxysmal tachycardia with landiolol hydrochloride during cesarean section in a patient with hypertrophic obstructive cardiomyopathy. | 安部隆国 | 麻酔科 |
| Biomed Research (23年1月発行) | Stimulation of autophagy by lipopolysaccharide-induced systemic inflammation of the liver in diabetes mellitus. | 萩原 聡 | 麻酔科 |
| Korean Journal of Pain (22年12月発行) | Use of imaging agent to determine postoperative indwelling epidural catheter position. | 内野哲哉 | 麻酔科 |
| Pain Physician (22年11月発行) | Trial spinal cord stimulator reimplantation following lead breakage after third birth. | 竹島直純 | 麻酔科 |
| Shock (22年10月発行) | Recombinant thrombomodulin prevents heat stroke by inhibition of high morbidity group box 1 protein in sera rat. | 萩原 聡 | 麻酔科 |
| Journal of Anesthesia (22年8月発行) | Hydrogen-rich saline solution attenuates renal ischemia-reperfusion injury. | 新宮千尋 | 麻酔科 |
| Journal of Trauma-Injury Infection & critical care (22年4月発行) | The impact of oxidative stress levels on the clinical effectiveness of siverestat in treating acute lung injury: an electron spin resonance study. | 松本重清 | 麻酔科 |
| Hypertension Reserch (22年9月発行) | Is the reno-protective effect of valsartan dose dependent ? A comparative study of 80 and 160 mg day (-1). | 犀川哲典 | 検査部 |
| Life sciences (22年7月発行) | High-glucose condition reduces cardioprotective effects of insulin against mechanical stress-induced cell injury. | 手嶋泰之 | 検査部 |
| EUROPEAN JOURNAL OF CLINICAL INVESTIGATION (22年7月発行) | Hepatocyte growth factor is a significant risk factor for white matter lesions in Japanese type 2 diabetes patients. | 犀川哲典 | 検査部 |
| Circulation journal (22年11月発行) | Gender differences in the ST segment. | 江崎かおり | 検査部 |
| Apoptosis (22年6月発行) | Mitochondrial KATP channels-derived reactive oxygen species activate pro-survival pathway in pravastatin-induced cardioprotection. | 手嶋泰之 | 検査部 |
| Heart Rhythm (22年11月発行) | Classification and assessment of computerized diagnostic criteria for Brugada-type electrocardiograms. | 犀川哲典 | 検査部 |
| Heart Rhythm (22年10月発行) | Recombinant thrombomodulin prevents heatstroke by inhibition of high-mobility group box 1 protein in sera of rats. | 萩原 聡 | 検査部 |
| Europace (22年4月発行) | Characterization of bipolar during sinus rhythm for complex fractionated atrial electrograms recorded in patients with paroxysmal and persistent atrial fibrillation. | 高橋尚彦 | 検査部 |
| Circulation journal (22年7月発行) | Radiofrequency catheter ablation of ventricular tachyarrhythmia under navigation using EnSite array. | 高橋尚彦 | 検査部 |
| Europace (22年12月発行) | Characterization of non-pulmonary vein foci with an EnSite array in patients with paroxysmal atrial fibrillation. | 高橋尚彦 | 検査部 |

| | | | |
|---|--|-------|-------|
| The Japanese journal of antibiotics (22年12月発行) | [Antimicrobial susceptibility of clinical isolates of aerobic Gram-positive cocci and anaerobic bacteria in 2006] | 高橋尚彦 | 検査部 |
| The Japanese journal of antibiotics (22年12月発行) | [Antimicrobial susceptibility of clinical isolates of aerobic Gram-negative bacteria in 2006] | 犀川哲典 | 検査部 |
| Heart Rhythm (23年2月発行) | Pioglitazone attenuates inflammatory atrial fibrosis and vulnerability to atrial fibrillation induced by pressure overload in rats. | 手嶋泰之 | 検査部 |
| 心臓 (22年12月発行) | 高齢女性ATP感受性心房頻拍の2症例 | 高橋尚彦 | 検査部 |
| The Japanese journal of antibiotics (22年12月発行) | 各種抗菌薬に対する2006年臨床分離好気性グラム陰性菌の感受性サーベイランス | 犀川哲典 | 検査部 |
| The Japanese journal of antibiotics (22年12月発行) | 各種抗菌薬に対する2006年臨床分離好気性グラム陽性菌および嫌気性菌の感受性サーベイランス | 犀川哲典 | 検査部 |
| Pharmacogenetics and Genomics (23年2月発行) | The effects of the SLCO2B1 c. 1457C > T polymorphism and apple juice on the pharmacokinetics of fexofenadine and midazolam in humans | 今永淳子 | 臨床薬理 |
| The Journal of Pathology (22年2月発行) | Genomic profiling of gastric carcinoma in situ and adenomas by array-based comparative genomic hybridization. | 黒田明子 | 総合診療部 |
| European journal of clinical microbiology & infectious disease (22年6月発行) | Clinical relevance of cagPAI intactness in Helicobacter pylori isolates from Vietnam. | 沖本忠義 | 総合診療部 |
| BMC Gastroenterology (22年9月発行) | Helicobacter pylori infection and gastroduodenal diseases in Vietnam.; a cross-sectional, hospital-based study. | 沖本忠義 | 総合診療部 |
| Future Microbiology (22年12月発行) | Serum Helicobacter pylori CagA antibody as a biomarker for gastric cancer in east-Asian countries | 松成 修 | 総合診療部 |
| Journal of Clinical Microbiology (22年8月発行) | Relationship between J-Western CagA subtype and the vacA m2 region of Helicobacter pylori. | 松成 修 | 総合診療部 |
| Scandinavian Journal of Gastroenterology (23年3月発行) | Comparison of the efficacy of irrogadine maleate and famotidine for the healing of gastric ulcers after Helicobacter pylori eradication therapy;a randomized, controlled, prospective study. | 村上和成 | 総合診療部 |
| Journal of Neurology (23年2月発行) | The relationship between Helicobacter pylori infection and Alzheimer's disease in Japan. | 村上和成 | 総合診療部 |
| Gastrointestinal Endoscopy (22年7月発行) | Endoscopic closure of a large ERCP-related lateral duodenal perforation by using endoloops and endoclips. | 村上和成 | 総合診療部 |
| Journal of Dermatology (22年4月発行) | Drug-induced hypersensitivity syndrome due to carbapenem antibiotics. | 緒方正男 | 輸血部 |
| Internal medicine (22年7月発行) | Rare primary effusion lymphoma associated with HHV-6 in Japan. | 緒方正男 | 輸血部 |
| Internal medicine (22年10月発行) | Successful treatment of refractory enteropathy-associated T-cell lymphoma using high-dose chemotherapy and autologous stem cell transplantation. | 緒方正男 | 輸血部 |
| British Journal of Radiology (22年12月発行) | A case of pneumonitis and encephalitis associated with human herpesvirus 6 (HHV-6) infection after bone marrow transplantation. | 緒方正男 | 輸血部 |
| Clinical Anatomy (22年9月発行) | Termination of the vertebral veins: Evaluation by multidetector row computed tomography | 三宅秀敏 | 医療情報部 |
| Cancer Chemotherapy and Pharmacology (22年5月発行) | Additive effects of drug transporter genetic polymorphisms on irinotecan pharmacokinetics/ pharmacodynamics in Japanese cancer patients. | 白尾 國昭 | 腫瘍内科 |
| British Journal of Clinical Pharmacology (22年8月発行) | Association of carboxylesterase 1A genotypes with irinotecan pharmacokinetics in Japanese cancer patients. | 白尾 國昭 | 腫瘍内科 |
| gastric cancer (22年8月発行) | Second-line chemotherapy with irinotecan plus cisplatin after the failure of S-1 monotherapy for advanced gastric cancer. | 白尾 國昭 | 腫瘍内科 |
| Internal medicine (22年8月発行) | Extramedullary plasmacytoma as an uncommon cause of gastrorrhagia. | 森永亮太郎 | 腫瘍内科 |
| BMC Gastroenterology (22年11月発行) | Vesicocutaneous fistula formation during treatment with sunitinib malate: Case report. | 渡邊浩一郎 | 腫瘍内科 |
| Investigational New Drugs (22年12月発行) | Phase I/II study of sunitinib malate in Japanese patients with gastrointestinal stromal tumor after failure of prior treatment with imatinib mesylate. | 白尾 國昭 | 腫瘍内科 |
| Japanese Journal of Clinical Oncology (23年1月発行) | A Multicenter Phase-II Study of 5-FU, Leucovorin and Oxaliplatin(FOLFOX6) in Patients with Pretreated Metastatic Colorectal Cancer. | 白尾 國昭 | 腫瘍内科 |
| Cancer Chemotherapy and Pharmacology (23年3月発行) | Final results of randomized trials by the National Surgical Adjuvant Study of Colorectal Cancer (NSAS-CC). | 白尾 國昭 | 腫瘍内科 |

計131

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

| | | | |
|---------|-----------------|----------------|--|
| 管理責任者氏名 | 病 院 長 古 林 秀 則 | | |
| 管理担当者氏名 | 総務課長 砂山 富 恵 | 医事課長 三浦 進 治 | |
| | 薬剤部長 武山 正 治 | 放射線部長 森 宣 | |
| | 医療安全管理部長 鈴木 正 志 | 研究協力課長 弓 削 純 一 | |

| | | 保管場所 | 管理方法 | |
|-------------------------------------|--|------------------------|---|-----|
| 診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌 | | 各診療科 | カルテ等病歴資料は、外来・入院別に一患者一ファイル方式で、コンピューターによる集中管理を行っている。 また、エックス線写真は、放射線部において一患者一ファイルで管理を行っており、共に永久保存を原則としている。 | |
| 処方せん | | 薬剤部 | | |
| 手術記録、看護記録、検査所見記録 | | 医事課 | | |
| エックス線写真 | | 放射線部 | | |
| 紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書 | | 医事課 | | |
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 従業者数を明らかにする帳簿 | 総務課 | | |
| | 高度の医療の提供の実績 | 医事課 | | |
| | 高度の医療技術の開発及び評価の実績 | 研究協力課 総務課 | | |
| | 高度の医療の研修の実績 | 総務課 | | |
| | 閲覧実績 | 総務課 | | |
| | 紹介患者に対する医療提供の実績 | 医事課 | | |
| | 入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿 | 医事課及び薬剤部 | | |
| | 第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項各号の状況及び第九の二十三第一項 | 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | | 総務課 |
| | | 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | | 総務課 |
| | | 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | | 医事課 |
| | 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | 医事課 | | |
| | 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 | 医事課 | | |
| | 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 医事課 | | |
| | 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 | 医事課 | | |
| | 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 | 医事課 (医療安全管理部) | | |

| | | 保管場所 | 分類方法 |
|---|--|---|-------------------|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況 | 院内感染のための指針の策定状況 | 医事課 |
| | | 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 医事課 |
| | | 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 医事課 |
| | | 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況 | 医事課 (感染制御部) |
| | | 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況 | 医事課 |
| | | 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況 | 医事課 |
| | | 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 医療機器安全管理 専門委員会 |
| | | 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | 医療機器安全管理 専門委員会 |
| 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 医療機器安全管理 専門委員会 | | |

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

| | |
|-------------|-----------|
| 閲覧責任者氏名 | 医学・病院事務部長 |
| 閲覧担当者氏名 | 総務課長 |
| 閲覧の求めに応じる場所 | 管理棟第2会議室 |

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

| 前年度の総閲覧件数 | | 延 | 0件 |
|-----------|--------|---|----|
| 閲覧者別 | 医師 | 延 | 0件 |
| | 歯科医師 | 延 | 0件 |
| | 国 | 延 | 0件 |
| | 地方公共団体 | 延 | 0件 |

○紹介患者に対する医療提供の実績

| 紹介率 | 79.9% | 算定期間 | 平成22年4月1日～平成23年3月31日 |
|------------------------|---------|------|----------------------|
| 算出根拠 A: 紹介患者の数 | 8,595人 | | |
| B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数 | 8,264人 | | |
| C: 救急用自動車によって搬入された患者の数 | 1,432人 | | |
| D: 初診の患者の数 | 14,634人 | | |

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

| | |
|--|--|
| ① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 |
| ・ 指針の主な内容： 医療安全管理に関する基本的考え方、医療安全管理に係る体制確保のための組織等、医療安全管理に係る職員の教育・研修、医療事故発生時の対応、医療事故等の報告及び改善策の立案、当該指針の閲覧、患者相談に関する方針等 | |
| ② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 年 1 6 回 |
| ・ 活動の主な内容： 医療安全管理指針及び医療安全管理マニュアルの策定及び見直し、医療事故の判定、医療安全管理に関する改善策、医療安全管理のための職員研修、医事紛争、その他医療安全管理上の重要事項の審議 | |
| ③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 年 6 回 |
| ・ 研修の主な内容： 平成 21 年度インシデント報告・総括、医療安全管理ポケット版マニュアル第 2 版について、医療安全からみる褥瘡対策、医療安全とコミュニケーション、ME 機器講習会、医薬品適正使用、患者家族参加型でより良い医療を | |
| ④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | |
| ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (<input checked="" type="checkbox"/> ・無) | |
| ・ その他の改善のための方策の主な内容： 事故報告については、調査・分析を行い、改善策の立案を行っている。全体で共有すべき事例や決定した安全対策については、毎月リスクマネージャー連絡会を開催し、リスクマネージャーを通して全体への周知を図っている。 定期的に院内ラウンドを実施し、安全情報等の周知状況や安全確認手順の実施検証を行っている。 | |
| ⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> (1 名) ・無 |
| ⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> (6 名) ・無 |
| ⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 |
| ・ 所属職員： 専任 (1) 名 兼任 (1 6) 名 | |
| ・ 活動の主な内容： メディカル・リスクマネジメント委員会が有効に機能するよう具体的な提案事項等の作成、その他委員会の庶務インシデント報告を分析し、その結果を委員会に報告すること及び現場へのフィードバック事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認と必要な指導事故等について、患者や家族への説明などその発生時の対応状況について確認と必要な指導事故等について、その原因究明が適切に実施されていることの確認と必要な指導医療内容についての相談等、医療安全に係る連絡調整、医療安全管理に関する職員研修の企画・運営、医療安全対策の推進 | |
| ⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 |

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|--|
| ① 院内感染対策のための指針の策定状況 | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 |
| ・ 指針の主な内容： 院内感染に対する基本的考え方，院内感染対策のための委員会およびその他組織に関する基本的事項，院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本的方針，感染症の発生状況の報告に関する基本方針，院内感染発生時の対応に関する基本方針，患者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針，その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針 | |
| ② 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 年 1 2 回 |
| ・ 活動の主な内容： 感染予防対策の確立，感染予防の実施，監視及び指導，感染源の調査，感染予防対策に関する情報の収集等 | |
| ③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 年 5 回 |
| ・ 研修の主な内容： 抗菌薬使用状況・消毒薬の使用について，多剤耐性アシネドバクター事例から学ぶ感染対策，誤嚥予防と PEG の役割，抗菌薬の使用における TDM（血中薬物濃度モニタリング）の方法と有効活用，針刺し・切創対応について | |
| ④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況 | |
| ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (<input checked="" type="checkbox"/> ・無) | |
| ・ その他の改善のための方策の主な内容： 院内の菌検出状況や感染症患者の状況を電子カルテシステム内の感染制御システムで管理している。主要な感染菌の検出状況や感染者情報については毎月報告を行っている。 抗菌薬の使用状況やTDMについても定期的に報告を行っており，注意を要する抗菌薬については届出制とし，感染制御部の介入を図っている。 感染制御部及びリンクナースによる院内ラウンドを定期的に行い，標準予防策や感染対策の実施状況の確認，指導を行っている。また，各種感染症サーベイランスも行っており，定期的に報告を行っている。 マニュアル変更や院内感染対策の重要情報については，病院運営委員会及び病院連絡会を通して周知を図るとともに，感染制御部ニュースを発刊し院内各部署へメール配信している。 | |

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|-----------------------|
| ① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況 | 有・無 |
| ② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 年 4 回 (ビデオセミナーを含む) |
| <p>・ 研修の主な内容：</p> <p>○抗菌薬使用状況・消毒薬の使用について</p> <p>○医薬品適正使用 ～最近のインシデント事例から～</p> <p>○抗菌薬使用における TDM（血中薬物濃度モニタリング）の方法と有効活用 ～TDMって何だろう？～</p> | |
| ③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | |
| <p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 業務の主な内容：平成 23 年 7・8 月に実施し、確認内容を保管記録している。</p> | |
| ④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| <p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>得られた情報のうち必要なものについては医薬品を取り扱う職員に対して周知する。</p> <p>D I ニュース（月 1 回発行）、薬剤部便り（月 1 回発行）、その他必要に応じて通知文書として配布</p> | |

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|--|
| ① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 |
| ② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 年 2 8 回 |
| <p>・ 研修の主な内容：</p> <p>研修医オリエンテーション，看護部新採用者 ME 研修，ME 機器講習会にて，全部署にて使用する医療機器（人工呼吸器・除細動器・輸液ポンプ等）の講習会を実施</p> <p>部署ごとに関連する医療機器の講習会（人工呼吸器，透析装置，IABP・PCPS，除細動器，人工心肺勉強会，補助人工心臓，保育器勉強会，輸液ポンプ・シリンジポンプ）の実施</p> <p>各種医療機器（超音波診断装置・ベッドサイドモニタ）導入時研修の実施</p> | |
| ③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | |
| <p>・ 計画の策定 （ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>人工心肺装置，補助循環装置，人工呼吸器，除細動器，AED，血液浄化装置，保育器と輸液ポンプ等の点検スケジュールの策定，実施は臨床工学技士が行っている。</p> <p>また，放射線機器については，放射線技師が実施している。</p> <p>（始業・終業点検，安全・動作確認等日常点検，出力測定，漏洩線量測定など）</p> | |
| ④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| <p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医療機器安全管理システムを用いた添付文書及び安全情報の管理，PMDAメディナビによる情報収集，MDIC取得（臨床工学技士2名），ME機器講習会での周知，臨床工学技士の各種研修会・講習会への参加や報告</p> | |